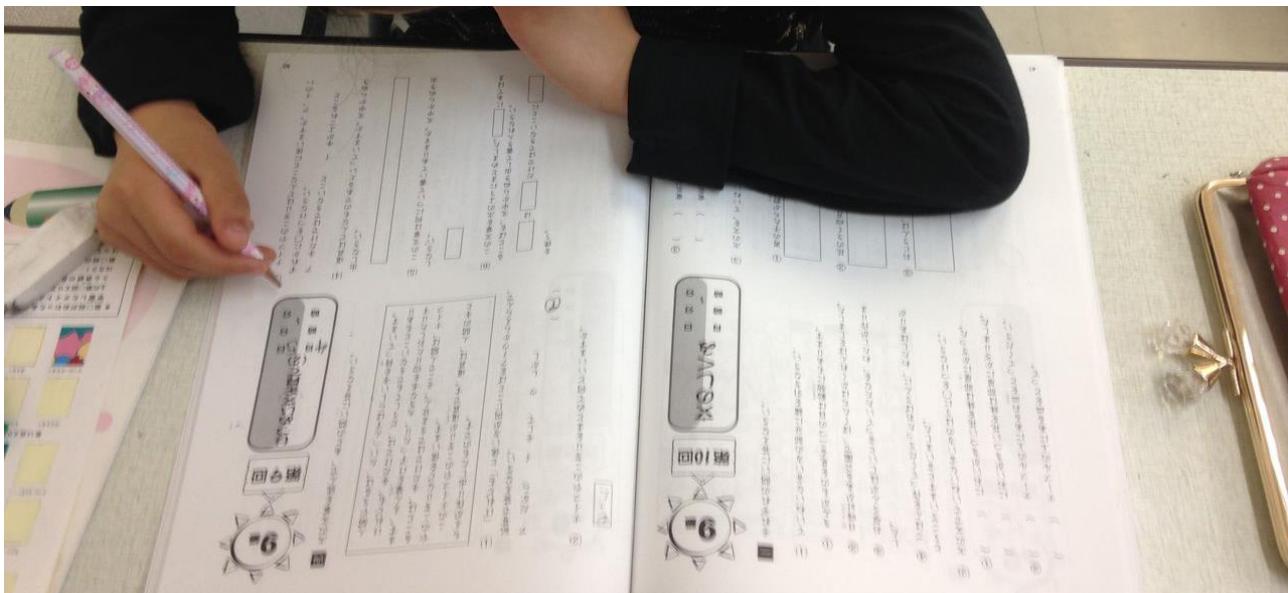


問われる国語力とは？

国語力が欠如すると中学、高校以降のすべての教科の学習に支障をきたします。それどころか社会人になっても苦労することもあります。では国語力を養うにはどうすればよいのでしょうか。前回、「読書のススメ」でも述べたように読書量と国語力の相関関係は大変深いものです。しかし、ここでは読書ではなく日常の生活の中での対策を考えてみたいと思います。



指導の現場からの報告…やや極論かもしれません



「文中の傍線部 that の内容を具体的に答えなさい。」先日、中学生の英語の長文問題でこんな問い合わせがありました。よく遭遇する設問ですね。これはまさに国語の「指示語」です。英語の長文では同じ言葉の重複を避けるために that や it という指示語が頻繁に使われています。国語の長文読解同様直前の行に答えが隠されていることが多く、それらは簡単に見出すことができます。しかし、具体性に欠けていたり名詞や形容詞の形にまとめることができなければ減点となります。ここにも国語力が問われるのです。

また、数学の証明では論理的に適切な文章を数式の中に挿入しなければなりません。数学 A や I では集合、順列など論理的な問題にも文章の理解が求められます。もちろん、理科や社会でも文章を理解できないため暗記がスムーズにいかないことがあります。

こうなれば国語はすべての科目に大なり小なり影響を与えます。成績の伸び悩みもこうした因果関係によるものが少くないでしょう。国語を軽んじていると付けが回ってきます。

現場で指導に当たっているといろんなことに直面します。文章をろくに読んでいない子どもがたくさんいます。「面倒だから、内容が難しいから理解できない」というならわかりますが、速く読もうとするあまり正確さにかけることもあります。物語文や隨筆などの文学的文章では、行間をじっくり読み取って感受性を養うことが最も大切なのです。速読が功を奏するのはかなり読解力が備わった場合です。速読と同様、「漢検」も気になります。「漢検」のための漢字になってはいないでしょうか。多くの私立小学校で

は漢字検定を推奨していますが普段の漢字力・語彙力は決して豊富なものとは言えません。漢字は単なる記号ではなく姿、形、性格そして声(音)をもつものです。これらは国語力のアシストになるどころか足を引っ張ることになるのではないかと思います。まさに歯車の空回りと感じるのは私だけでしょうか。

やってみよう！教室長からの提言です。

自分の意思を言葉で相手に伝える習慣をつけよう！

これぞ文の組み立ての練習です。どのように表現したら自分をわかってもらえるのか。また、正確に物事を相手に伝えられるのか。主語や述語、そして効果的な修飾語句を考えながら実践練習をします。

町中の看板や印刷物から文字や言葉を拾っていこう！

教材は町中 있습니다。看板、電車の中吊り広告、駅の表示など学習する機会は多々あります。もちろん間違った表現や言葉遣いもあります。そうした真偽を見分けることも大切です。そして、最終的には文学的文章に行きつくのです。



読み・書きを日常生活の中に取り込もう！

上手・下手別にして文章を書く習慣を身につけましょう。短いフレーズでもいいのです。積極的には推奨しませんが極端に言えばスマホのメールでも構いません。友人とメールのやり取りをしていて思うのはやはり国語力のある人はメールの文章も簡潔で分かりやすいということです。



好きな作家を見つけて文体をまねてみよう！

やはり往年の作家の文章は優れています。というより正しい品詞の使い方をしているのです。失敗談ですが私の高校時代は小林秀雄の文章が入試にでるということで彼の文章がブームになりました。一度文体をまねましたが結局混沌として訳がわからくなった苦い経験があります。なるべくわかりやすい作家の文章を選びましょう。トピックの推薦図書に掲載したものなら間違いないでしょう。あとは好みです。

国語は生涯学習です。この国に住み活動を続けるなら国語力を養っておかなければなりません。とはいってもの一朝一夕に身につくものではありません。養成は幼年期にすでに始まっています。しかし、小学高学年や中学からでも遅くありません。それぞれの時期での学習方法があるからです。私の場合、それまでの自分の国語力を恥じ高校から重い腰を動かしました。もちろん今でも苦手科目です。国語力養成には自分に合った対策があるはずです。それも早ければ早い方がいいのです。



標準関西 ■ 岸和田校

☎(072)437-8641(代)